

令和4年度北九州市小児保健研究会調査研究報告書

研究事業名：不登校児に対するオンライン授業の効果検討

研究者：石井 雅宏(北九州総合病院小児科)

要旨：

【目的と意義】本研究の目的はオンライン授業がコロナ流行収束後も不登校児にとって「学習習熟度を上げる」もしくは「社会との接点を保つ」点において有益な授業形態であるかどうかを調べることである。意義としてはオンライン授業が不登校児にとって社会への繋がりが希薄になり、勉学も遅れさらに不登校状態になり、やがて非行やひきこもりにつながる悪循環を断てるツールとして認識・実装されることにある。

【方法】対象は北九州市立のすべての小学校とした。北九州総合病院から北九州市立小学校に本研究に参加のお願い文書とアンケート用紙を送り、承諾を得られた小学校にはアンケートを完全匿名状態で北九州総合病院に郵送してもらい、解析を行った。

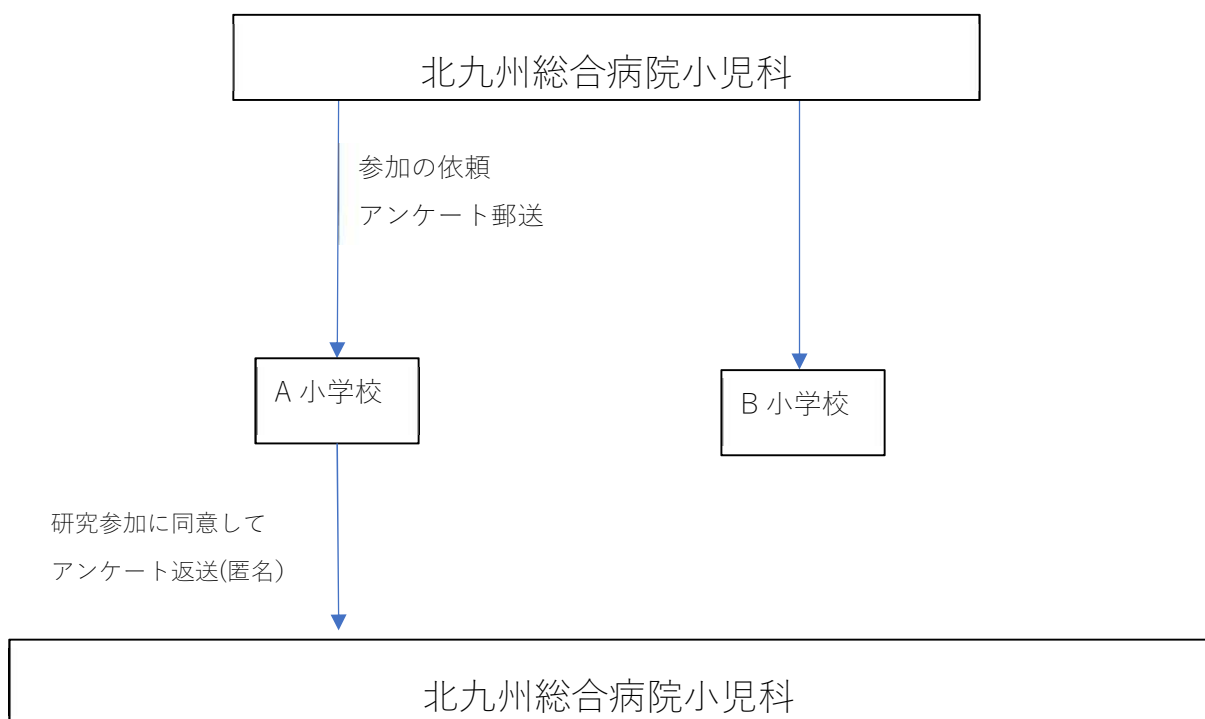
【結果】回答率は 20.6% (26/126) であった。学校全体でのオンライン授業体制への回答はオンライン授業実施した学校が 88%、一年間継続して行ったのが 45%、授業時間が 45 分で施行したのが 96% であった。次に一般児童に対するオンライン授業についての質問では授業時間が適正と感じたのが 75%、授業を毎回ほぼみな最後まで受けられていたのは 69% だった。これを踏まえオンライン授業も今後も残した方が良いかの質問に残した方が良いと回答したのは 62% であった。そして不登校児童に対するオンライン授業についての質問では不登校児がオンライン授業に参加したと答えた学校が 70%、授業を毎回ほぼみな最後まで受けられていたのは 7%、最後まで受けられた方が多かったと答えたのが 43% だった。不登校児へのオンライン授業経験を踏まえ、オンライン授業が不登校児の学習習熟度を上げるのにとっても効果があると答えたのが 21%、少し効果があると答えたのが 36% だった。一方、オンライン授業は不登校児が社会とのつながりを保つのにとても役に立つと答えたのが 34%、まあまあ役に立つと答えたのが 53% だった。

【考察・結論】授業を通じて学習習熟度を上げるためには授業を最後まで集中して聴講することが重要である。オンライン授業では一般児童でも終了時間まで集中力を保てない場合もあり、不登校児の場合はさらに困難であることが結果から推察された。一方社会的なつながりを保つのにオンライン授業という形態は役立つかについては 8 割近い学校から肯定的な返答があった。現時点で、教育現場ではオンライン授業は不登校児にとって社会的なつながりを保つツールとしての手ごたえがよりつよく感じられたということが分かった。

(緒言) : 令和 2 年度全国の小学校不登校児童の数は 63500 人で、福岡県は第 5 位である。従前では不登校になると社会への繋がりが希薄になり、勉学も遅れさらに不登校状態になり、やがて非行やひきこもりにつながる悪循環が見られた。しかし、コロナ禍によりオンライン授業と言う新しい授業形態が登場した。これが前述の悪循環を断つツールになり得ると考えた。

(方法) : 後ろ向き観察研究で行う。

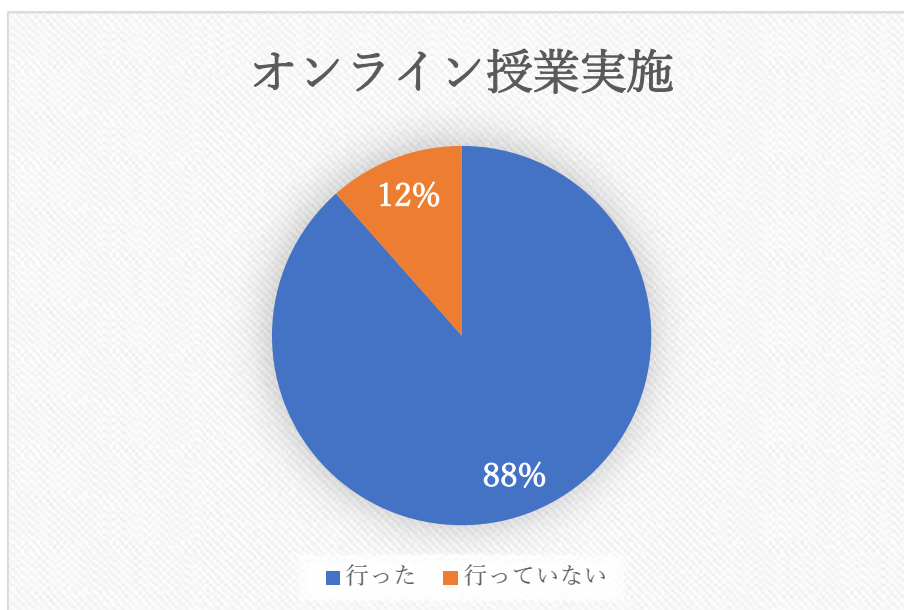
北九州総合病院から北九州市立小学校に本研究に参加のお願い文書とアンケート用紙を送る。承諾を得られた小学校にはアンケートを完全匿名状態で北九州総合病院に郵送してもらう。返送されたアンケートを基に解析を行う(下図)



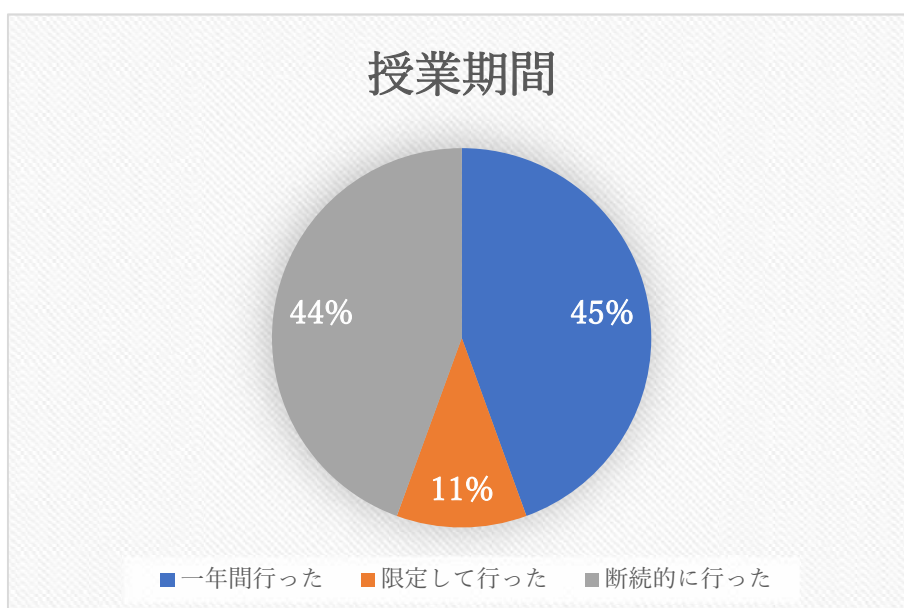
(結果) : 回答率 20.6% (26/126)

学校全体でのオンライン授業体制について

質問. 昨年度(2021年4月~2022年3月)に貴校はオンライン授業を行いましたか。



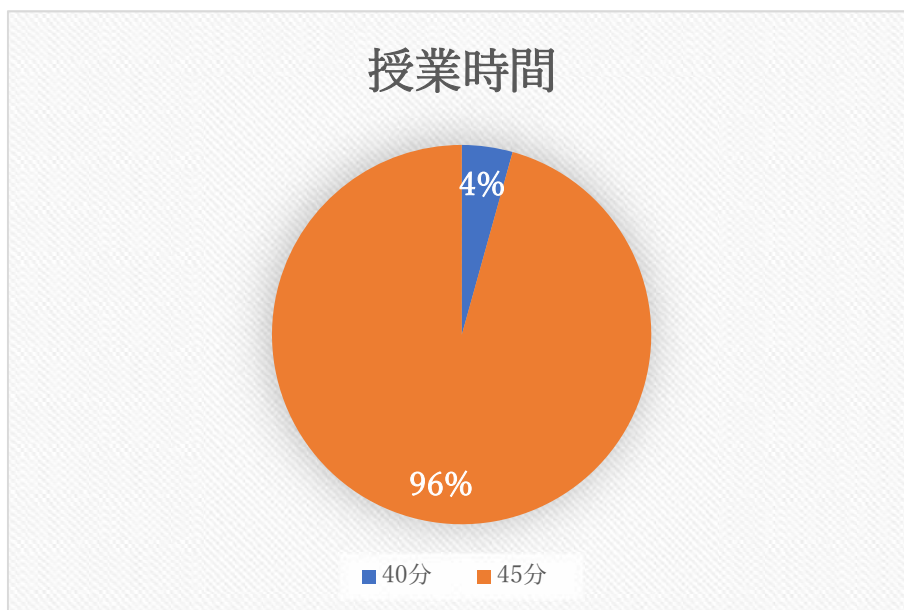
質問. 貴校が昨年度(2021年4月~2022年3月)オンライン授業を行った期間はどれくらいですか。



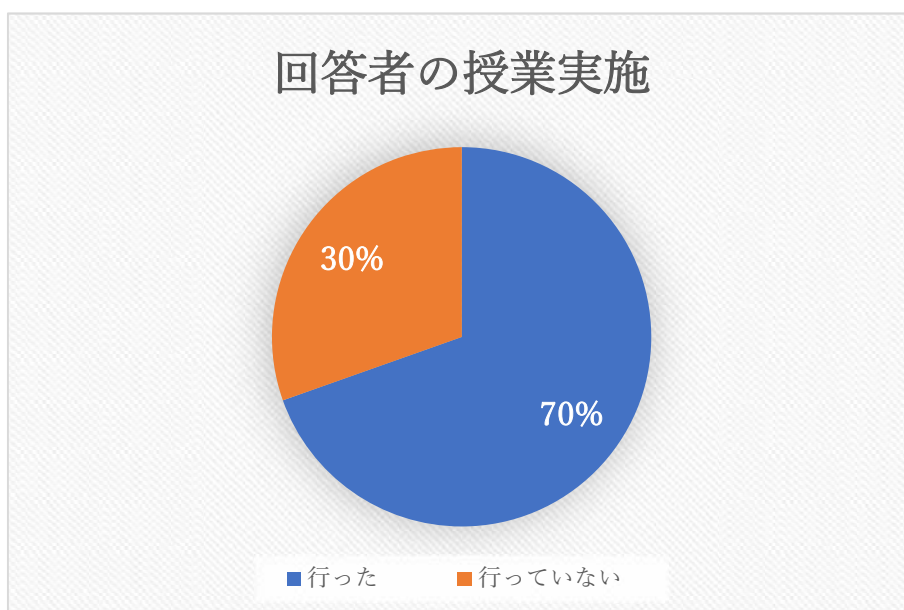
断続的に行った場合は具体的な期間を下記にご記入ください。

- ・コロナ陽性及び濃厚接触の児童を対象に随時行った。
- ・児童や保護者から要望があった場合に実施した。
- ・学校が休校措置になったときに行った。
- ・コロナ濃厚接触の児童が希望したときに行った
- ・風邪症状等で欠席する場合でも本人がオンライン希望すればその際実施した。
- ・欠席対応で希望に応じて行った。

質問. 貴校が実施した1時限のオンライン授業は何分間でしたか。

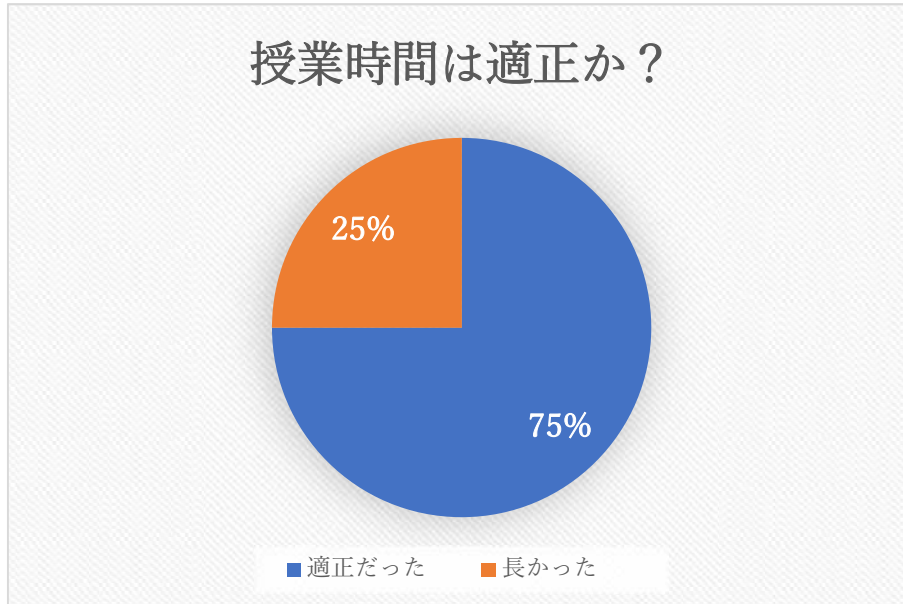


質問. 昨年度(2021年4月～2022年3月)にあなたはオンライン授業を行いましたか。

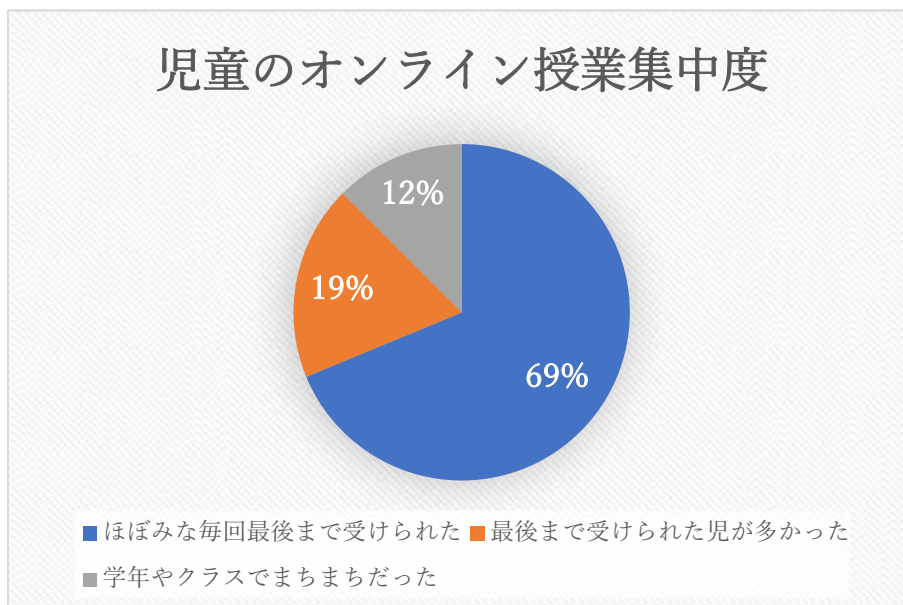


一般児童とオンライン授業について

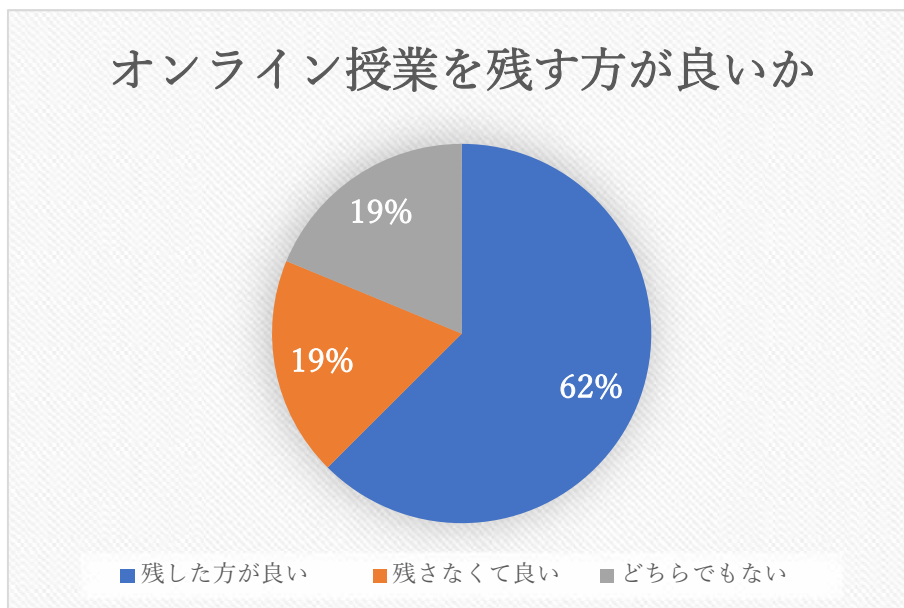
質問. あなたはこのオンライン授業時間は適正と感じましたか。



質問. 1時限のあなたのオンライン授業で児童は最後まで受けられましたか。



質問. コロナ禍が落ち着いた後もオンライン授業という形式は残した方が良いですか。



質問. 回答の理由を教えてください。

「残した方が良い」理由

- ・不登校児童ともつながりを保てる手段であると感じたから。
- ・保護者の希望もあるので
- ・学習方法の選択肢は1つでも多くあった方が良く考えたから。
- ・コロナ禍等は関係なく不登校や事情により学校に来られない児童の学習権を保障することができるため。
- ・コロナ以外にも病気やその他の理由で欠席する児童がおり、学習参加を希望する児童にその選択肢を常に残しておきたい。
- ・諸事情で学校に来られない子にも学習の機会が与えられるため。
- ・児童にはさまざまな選択肢があった方が良く思うため。
- ・災害等で登校困難な場合の授業を行えるから。
- ・不登校児童が学校(友人)とつながるきっかけになる
- ・不登校児に対して学習機会の保障ができる。

「残さなくて良い」理由

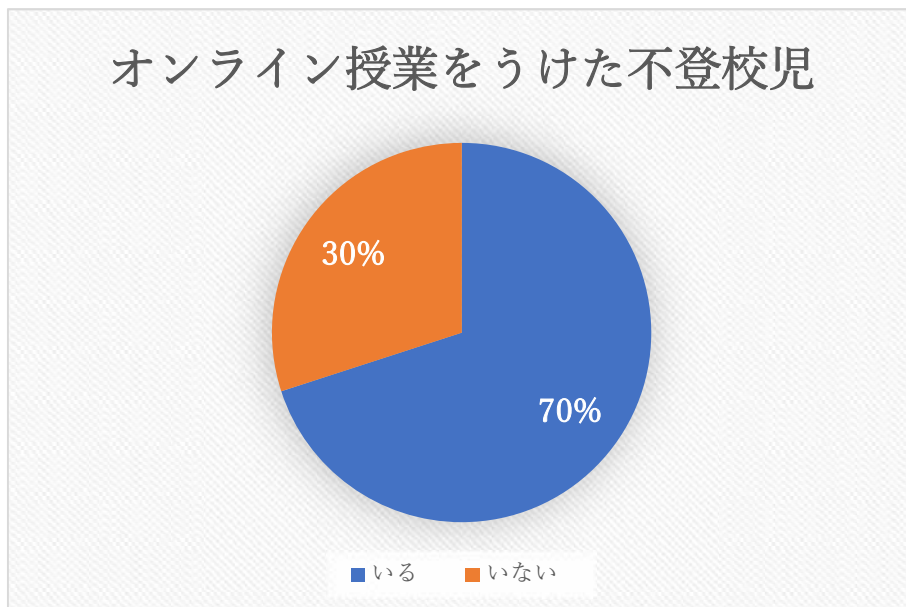
- ・授業を1-6時間目までオンラインにしたら児童も教員も集中力が続かない。
- ・オンライン用の授業ではなかった/子供同士の交流が難しかった。
- ・チームズから退出しなかった。

「どちらでもない」理由

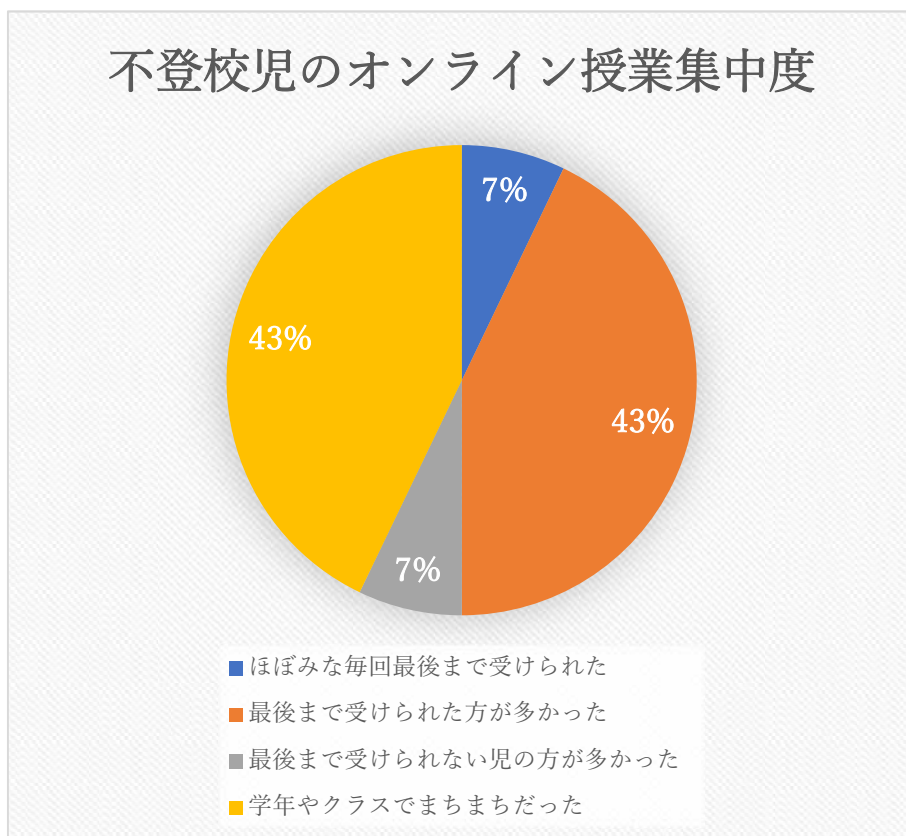
- ・基本は対面授業だが、不登校児にとってはひとつのツールになる。
- ・長欠児童にとってはオプションの一つとして有効だからです。
- ・担任が負担に感じている部分も多くあったので。

不登校児のオンライン授業について

質問. 貴校の不登校児童でオンライン授業を受けた児童はいますか。



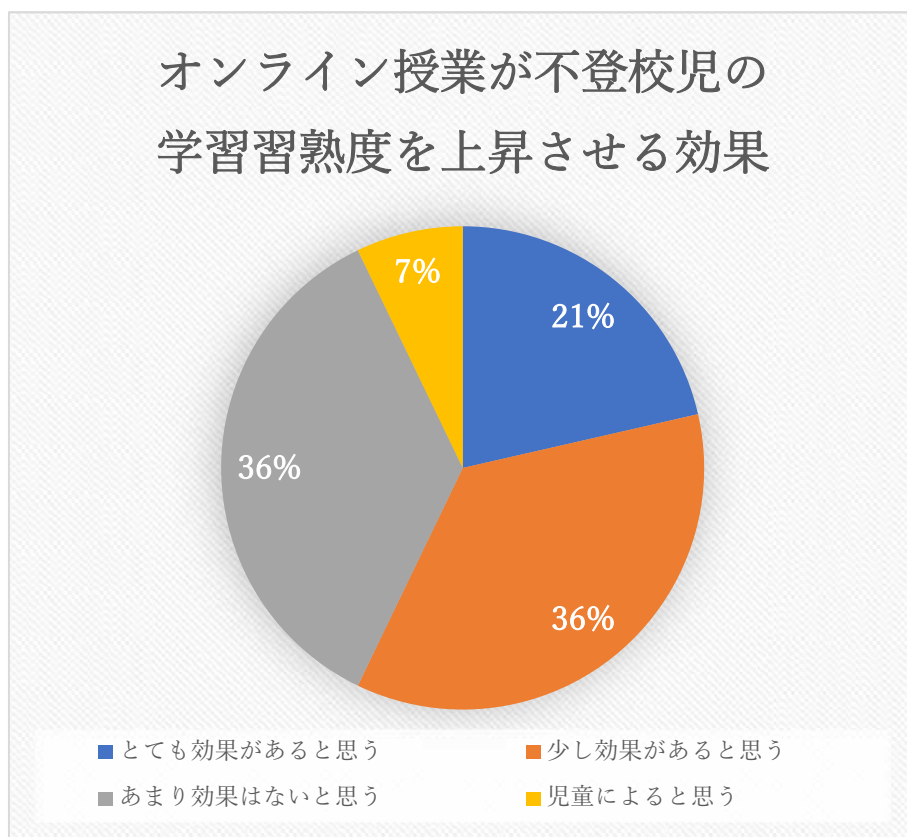
質問. 1時限のあなたのオンライン授業で不登校児童は最後まで受けられましたか。



質問. 「最後まで受けられない児童の方が多かった。」もしくは「ほぼみな最後まで受けられなかった。」と回答した方に伺います。その理由はなんですか。

- ・時間が長かった
- ・家では集中できない

質問. 現在、北九州市で不登校児童の学習習熟度に合わせた授業をオンラインで行うという試みがあります。これは不登校児童の学習習熟度を上げるのに効果があると思いますか。



「とても効果があると思う」理由

- ・児童生徒の感想・保護者の方から感謝の言葉を伺ったので。
- ・不登校児も学びたい気持ちがある。その子に応じた対応がとても価値があると思う。
- ・不登校児童の不登校の原因は様々で、特に児童の発達段階や不登校期間によって学習習熟度が大きく違っているため、その児童に応じた学習の進め方が必要である。
- ・いままで学習していないところから入るのはハードルが高いから。

「少し効果があると思う」理由

- ・内容はともかく学習時間・機会の確保になると思う。
- ・きちんと受ける子よいが、顔出し等していない子はきちんと学びに結び付いているのかわからない。

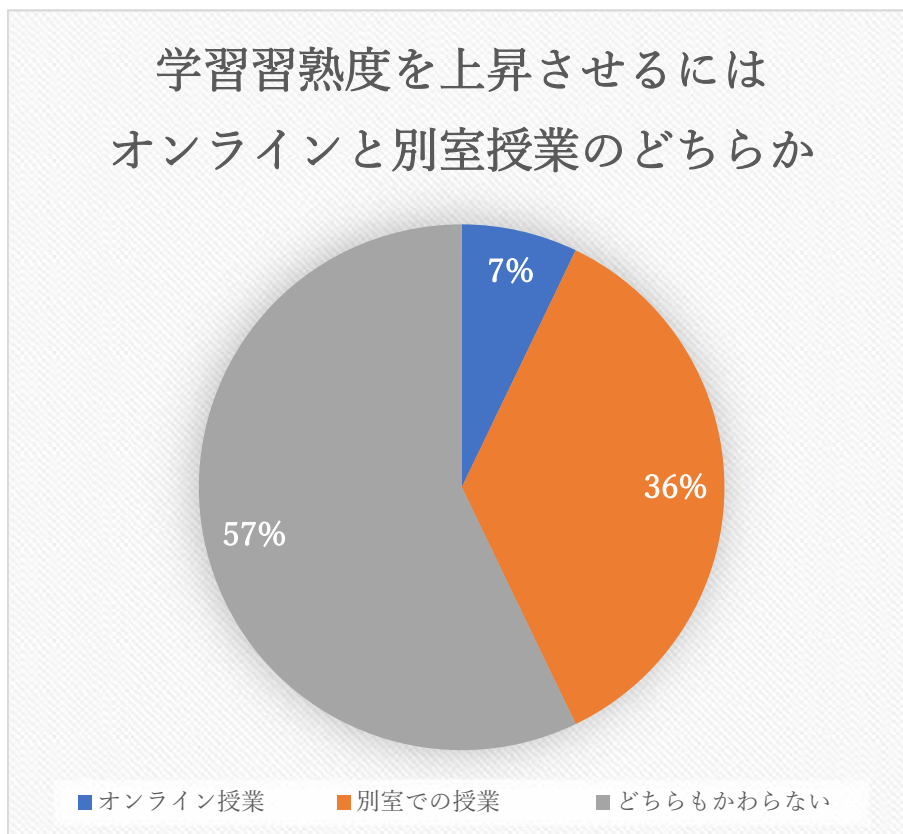
「あまり効果はないと思う」理由

- ・オンライン授業を実施したとしても本人のやる気、特に小学生においては保護者の手助けが必要である。家庭環境が整っておりサポートが可能であれば問題ないがそうでない場合も多いので難しいのではないかと思う。
- ・効果があるようにも感じるが、準備、実態把握が難しい。
- ・不登校の理由にもよりますが、不登校児に学習意欲の高い子は少ない。
- ・学力の向上には効果がゆるやかであろうと考える。速効性はない。
- ・ほぼ同じクラスの友達との交流が目的であり、児童自身の学習意欲が低いため。

「児童によると思う」理由

- ・保護者の介在がないと学習習慣定着が難しい。学校に来ない児であれば尚更であるから。

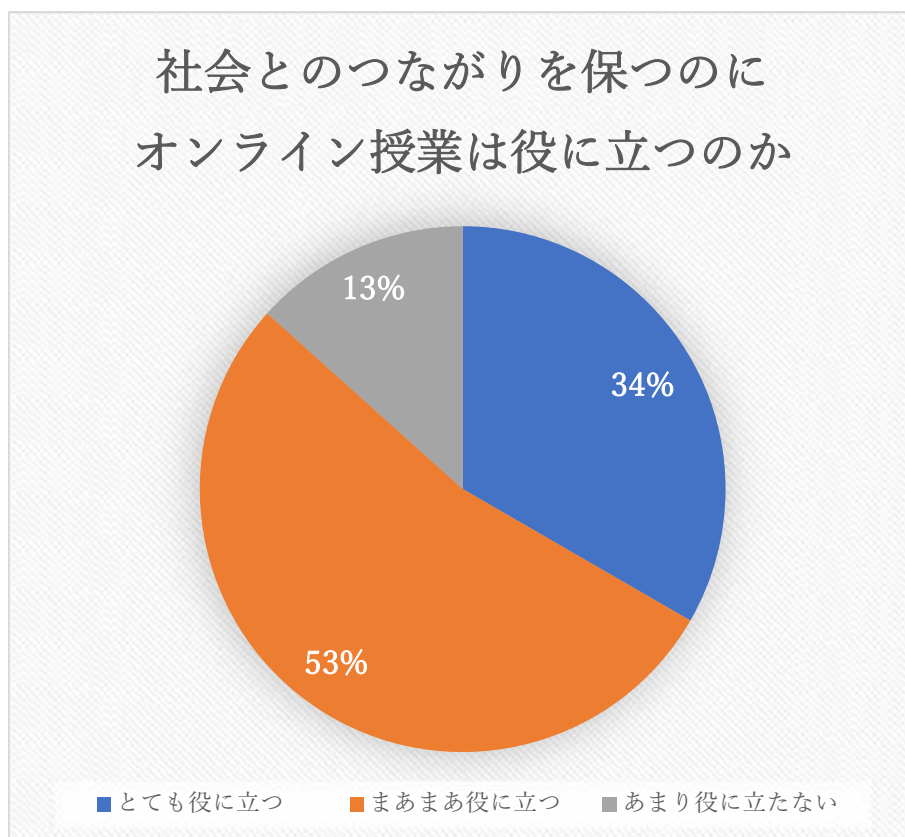
質問. 不登校児童の学習習熟度に合わせた授業をする場合、オンライン授業と別室での授業はどちらが良いですか。



記載されていたコメント

- ・本来の目的であれば別室での授業だが、今の児童の実態では学習につながらないのでオンライン授業も可。
- ・児童それぞれの特性によってちがうからどちらも優劣はない。
- ・オンライン授業か別室の授業かは本人の状態による。

質問. 不登校児童へのオンライン授業は学校や社会とのつながりを保つのに役に立つと思いますか。



「とても役に立つ」理由

- ・家庭以外の人と接する機会が増える。
- ・それで救われる子が一人でもいるのであれば。
- ・家に引きこもりがちの中、オンラインであっても他者と関われることは大切である。

児童をとりまく生活環境の変化、価値の多様化が進むなかで、これまでの日本型の学校教育も従来のやり方だけではその枠に収まりきれない児童も増加してきている。児童の「個別最適な学び」を進める上でもオンライン授業は今後ますます必要性が高まると考えられ、特に不登校児童の学校や社会とのつながりを保つうえで重要なツールになると考えます。

オンラインを受けることで「学校に行けていないこと」「授業を受けていないこと」に対して劣等感を持ちやすいことがなくなるので、自信につながる一つになる。

「まあまあ役に立つ」理由

- ・オンラインで授業を受けてくれる児童にとっては良いが、不登校児には様々な状況がありオンラインさえ受けない児童がほとんどであった。
- ・外部のつながりの一つとしては有用だと思う。
- ・学校とのつながりを切らないという点ではよいと思う(一日一回でも担任と子供が話をすることができるので・・・)

- ・とにかく外部とつながることが大切だと思うから。
- ・プリント配布だけだったのが、オンライン授業をすることでつながりができた。しかし、オンライン授業をしているときも他の教室の児童のフォローも必要となるのでオンライン中にしっかりと関わることができない。社会という点ではやはり人とは直接つながりを持つことが必要だと思うので、役に立つかというところ・・・どうだろうと思う。
- ・しないよりした方がつながると思う。
- ・オンラインがないとクラスの友達との交流がゼロになる。

「あまり役に立たない」理由

- ・顔を出さずに参加する児童、不登校児はなかなかオンラインに参加できていない現状がある。
- ・顔も出せない児童にとっての効果は限定的であるように思う。

【考察】

今回コロナ禍を契機に北九州市の小学校に急速に広まったオンライン授業と不登校児への有用性についてアンケートを行った。まず、不登校でない児に対してのオンライン授業で、4-45分間授業で「ほぼみな最後まで受けられた」「最後まで受けられた方が多かった」が88%に達したが今後のオンライン授業の継続についても2割が児童の集中の困難さを理由に不要と答え、残した方が良い・どちらでもよいと答えた学校でも理由の大半はオプションの一つとしては残すべきとの意見であった。これらの回答で浮き彫りになったのは不登校児ではなく一般児童であってもオンライン授業での学習習熟度を上げることの困難さである。困難さは児の側としては集中力の持続の問題、教員側は集中力の持続もあるが、その授業内容の工夫が必要との回答があった。

これが不登校児を対象にするとさらに鮮明な結果となった。まずオンライン授業に参加できない児童の存在があり、受けられた場合でも40-45分間授業で「ほぼみな最後まで受けられた」「最後まで受けられた方が多かった」のは50%程度と通常の児童との大きな差が見られた。そのため、オンライン授業における不登校児の学習習熟度を上げるかの問いに対しては「あまり効果がないと思う」「児童によると思う」といった回答が約半数(43%)を占める結果になった。オンライン授業と別室授業のどちらが学習習熟度を上げるのには良いかの問いに「オンライン授業」と答えたのはわずか7%であった。これらからは現場の教師の感覚からはオンライン授業はで不登校児の学習習熟度を上げることは効果があるケースは存在するにせよかなりの困難を伴うとされていることが示唆された。

オンライン授業を残した方が良いとした意見にみられたのは「不登校児童ともつながりを保てる手段であると感じたから。」「不登校児童が学校(友人)とつながるきっかけになる」などの社会とのつながりを保つという面を期待である。この点について、社会とのつながりを保つのにオンライン授業は役に立つのかの問いに対しては「あまり役に立たないと」答えたのは13%にとどまった、最も多かったのは「まあまあ役に立つ」の53%であった。そ

う答えたなかの理由は「外部のつながりの一つとしては有用だと思う。」「学校とのつながりを切らないという点ではよいと思う(一日一回でも担任と子供が話をすることができるので・・・)」「とにかく外部とつながることが大切だと思うから。」「しないよりした方がつながると思う。」「オンラインがないとクラスの友達との交流がゼロになる。」とつながりを保つ効果に期待している回答が目立った。この点からオンライン授業は不登校児が社会への繋がりが希薄になり、やがて非行やひきこもりにつながる悪循環を断つツールとしての可能性は感じられると考えられた。

今回の研究では回答率が低いことがリミテーションになる。アンケートが学校の繁忙期である4月になってしまったことが大きな原因と思われる。そんな中でも返答してくださった教員の方々やこの研究実施に尽力してくださった教育委員会の方々には深謝いたします。このアンケートでの回答欄では現場の教員の方々が不登校児の問題を何とかしたいとの強い思いを感じる回答がところどころ見られました。そのような回答をくださった先生方の指導や努力の一助になれば幸いです。